

## 感謝の祝福（I テサロニケ 5:16-18）

出エジプトをしたイスラエルの民は、荒野を通りながら何かがあるたびに不安に走り、つぶやきました。条件、環境、状況によって常につぶやき、また不安を覚えていたわけです。そして、それが彼らの体質、癖になってすべてにおいて不安とつぶやきにつながるようになってしまい、荒野でのイスラエルは失敗者のモデルとなりました。つまり、彼らには感謝という二文字は全く見るができなかったということです。裏を返しますと、まことの感謝こそ人生勝利の鍵になるというおしえであり、またメッセージでもあります。感謝によってどのように私たちは勝利することができるのでしょうか。感謝はそれほど力なのでしょう。まことの感謝はどのように私たちに勝利を呼び込むものなのでしょう。ということをおしえの感謝礼拝を通して確認して行きたいと思えます。

まず第一に、救われた信者の私たちは、その神様の救いを感謝する人です。

### 1. 神様の救いを感謝する人は、過去を超越して自由になれる。

神様の救いを感謝する人は、過去を超越して自由になり、勝利者となります。これこそが超越の祝福の感謝です。

私たちがキリストの血潮によって救われたというのは、どんな内容なのでしょう。何が救いなのでしょう。気持ちが良くなることでしょうか。病気が治ることなのでしょう。

#### 1) 救いは完全なる解放

キリストの血によって救われたということは、完璧な完全なる解放です。私たちは自分では気づいていなかったでしょうが、神様を離れて生まれながら地獄の民でした。だから当然、サタンの奴隷として偶像崇拝をするしかなかったし、人生に答えがないままさまよい続けるしかなかった者なのです。それを聖書は、死と罪の原理に囚われていた者と言います。また、運命という言葉も使います。そのようにどうしようもできない絶対解決不可能な運命に囚われていた私たちが、ただ神の恵みにより、キリストの血潮によって死と罪の原理から完全に解放されたことを救いと言います。それで、いのちの御霊の原理の中に導き入れられたことを救いと言います。ヨハネ 5:24 には、イエス・キリストを信じる者は「死からいのちに移っているのです」とあります。ガラテヤ 2:20 にも、死と罪の原理に囚われて滅びるしかない私、過去の私は十字架とともに死んで、今はキリストが内側に生きる者に変えられたとあります。だから、II コリント 5:17 では、「古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」と宣言されるわけです。これが救われたということです。

#### 2) 過去への聖なる解釈

なので、この救いが何か分かって自分が救われたということを感じ感謝する人は、自分の過去に対して解釈が変わります。自分の過去に対しての解釈が聖なるものに変えられます。私たちは過去に戻ることはできません。また、過去を変えることなどもできません。しかし、過去に対しての見方を変えて、解釈を変えることができます。今まで自分の過去に対して、それがつらい過去なのか、失敗の過去なのか、理不尽なものだったのかわかりませんが、いろいろな過去がそれぞれにあったでしょう。そして、それに対していろいろな思い、考え、感情をお持ちになっていらっしやるでしょう。けれども救われたことを感謝する人は、このように過去を見る目が変わります。「なるほど、私が救われてなかったのも、そうならざるを得なかったんだね」。今までは誰かのせい、何かのせいにしてきた者でした。それも嘘ではありません。しかし、解釈が変わります。私が救われていなかったのも、言葉を変えますと私が救われるために、つまり、救い主キリストと出会うために必要なことだったと、救われた者は過去を見る目が変わります。だから、それが確かに理不尽なことで、確かにつらいことに間違いなかったでしょうけれども、それに対して良かったと言えるようになります。キリストによる救い、それより価値あるもの、それより大きなものはありません。レムナントは自然に親に連れられて教会に通うようになったので、そういう感覚があまりないかもしれません。しかし、神様はそのレムナントにこのような救いの祝福をおしえられ、また示される方なのです。そんなに理不尽な大変な経験などしなくても。だから礼拝を通

して神のみことばに耳を傾けるということがどれほど大切なことでしょうか。なるほど、私が救われていなかったのも、もし救われていたとすればヨセフのように、ダビデのように、話は変わってきていただろうと思うわけです。これが救われた人の過去に対しての解釈の違いになります。なので、自分の過去に対して暗い思い、考えなどはすべて消すことができるようになります。自分の過去、自分自身に対して否定的な単語はすべて消すことになります。救われたことを感謝する信者の場合は、自分の過去に対してそのようになります。親に捨てられた経験を覚えて、それがトラウマ、心の傷になった人もいます。ずっとそれに囚われて人生を生きるしかありません。

### 3) 過去を土台に、今の祝福に集中

しかし、救いを感謝する人は、それを超越して自由になります。その人は勝利者の道を歩むようになります。過去に対しての否定的な思い、暗い思い、否定的な単語などを全部消して、むしろその過去を土台にして、過去に全く縛られることなく、救われた今現在の祝福に集中することができるようになります。過去そのものは変えられません。消すこともできません。しかし、縛られることなどはありません。今の自分、救われた自分に集中することができますようになります。しかし、多くのクリスチャンが救いの感謝が欠けているので、過去に囚われているまま救われた今の自分、キリストの血潮によって新しく変えられた今現在の自分と向き合って喜ぶことがなかなか見られないのです。悪魔の都合なので、初穂の感謝礼拝を通して、ぜひこの感謝を回復しましょう。

## 2. 神様の導きを感謝する人は、現実を超越し勝利して答えを見る。

そして、救いを感謝する者は、二番目です。神様が私を、私の人生を導いていらっしゃるということがわかって、神様の導きを感謝するようになります。これがクリスチャンの感謝の中身です。神様の導きの中には神様の力が含まれています。神様の導きを感謝する人は、現実を超越して勝利を収め、神の答えを見るようになります。

これが感謝の威力なのです。現実囚われて、いつもつぶやき、不安を覚えている人は、不安なことがあるからではなくて感謝がないからです。神様の導きに対しての感謝がないからです。

### 1) W. I. O/O. U. R/C. V. D. I. P

神様は何があっても、私がどんなに弱者でも、いつでも私とともにおられ、私たちとともにおられ、すべてのことにおいてともにおられます。だから正しいか正しくないか、それが損なのか得なのかを計算する前に Only 唯一性、再創造の答えをそこで見つけるようになります。なので、CVDIP の契約の旅程を歩むようになります。これが神様の導きを信じて感謝する人の人生の在り方です。

### 2) 条件や環境、状況は問題にならない。

だからこそ神様の導きがあるからこそ、今現在の条件、環境、状況などは一切その人には問題になりません。それが神様の導きです。神様が導いていらっしゃるのに、その全能なる力をもって私をガイドしていらっしゃるのに、何が問題なのでしょう。でも条件、環境、状況にぶつかってそのたび倒れてしまう場合は、状況がきつからではなくて、それを上回る神様の導きを知らないし、導きを信じていないし、それを感謝していないからです。何か都合が良くなれば感謝、状況が少し厳しくなるとまたつぶやく。それは荒野での失敗のモデルから見る未信者の状態です。その私を殺して十字架とともに死なせて新しく造り変えられるためにイエス・キリストが十字架で血を流されました。私たちはそのイエス・キリストを信じる信者なのです。そのキリストが内側にもとおられるいのちを持っている信者なのです。自分のことを勝手に肉をもって評価しないようにしましょう。だから、いろいろな現実があるにもかかわらず、神様の導きがあるからこそ、その現実を問題にしません。問題になりません。

### 3) 荒野での証明、RT7 人、ヘブル 11 章、初代教会

それが荒野で証明されたのではないのでしょうか。紅海が目の前でふさがり、食べ物に困って砂漠の気候、敵が現れること等々、さまざまな障害やいろんな現実の問題があったにもかかわらず、それが問題だったのでしょうか。それが証明なのです。レムナント 7 人、それが証拠なのです。すべてを奪われてしまいました。それが問題だったのでしょうか。死の危機に直面しました。それが問題だったのでしょうか。

濡れ衣を着せられました。それが問題だったのでしょうか。失敗をしたこともあります。それが問題だったのでしょうか。教会がふらふら揺れたり、すべての世界が荒れ果てることになりました。しかし、信者にとってそれは一切問題ではありませんでした。それがレムナント7人の特徴なのです。ヘブル11章の信仰の先輩たちも同じです。初代教会もそうでしょう。初代教会は荒野のようにつぶやこうとすれば口が足りないぐらいの状況なのです。乞食のような人間ばかり集まって、お金も何もない。迫害されていて、礼拝の場に行くと言われると脅かされていた状況なのです。何ができるのでしょうか。ローマの植民地なのです。しかし、それが問題だったのでしょうか。一切問題になりません。なぜなら神様が導いていらっしゃるからです。神様の導きを信じて感謝しましょう。

#### 4) パウロのお証し-ローマ8:37、28、ピリピ4:7

だからパウロももこのようにお証しをしているわけです。ローマ8:37、死、飢え、裸、迫害、患難、いろいろなことがあっても何一つ問題にならない圧倒的な勝利者となるだけではなくて、28節には「すべてのことを働かせて益としてくださる」と書いてあります。なぜそのように言えるのでしょうか。パウロはそこで説教しているわけではありません。自分で経験してお証しをしているわけです。神の導きがあるからこそ、神の力が伴われているので、一切問題になりません。それでパウロは自分自身が刑務所の中にいるときにも、ピリピ4:7、私は刑務所の中でも外でも、お腹がすいても満腹でも人に嫌われても好かれても何一つ私には問題にならないんだ。私を強くしてくださる方によってできないことは何もないとお証しをして告白しているわけです。なぜなのでしょう。今、私たちの肉眼には見えないけれども、世界を歴史を動かしていらっしゃる、また悪魔のしわざを打ち壊して勝利なさった万軍の主が私を導いていらっしゃるのです。これを信じることを信仰と言います。

#### 5) 辿り着くところ-使徒1:7-8

なので、神様の導き感謝する人が辿り着くところが使徒1:7-8です。いろいろなことがあります。しかし、それはあなたがたは知らなくてもいいよ。それはあなたがたにとって問題ではない。そのすべてが証拠に代わるものなのです。あなたがたは今つぶやこうとしている、不安に覚えて心配しようとしている全部が証拠に代わって証人として立たされるんだ。神様の導きを感謝する人、その人が辿り着くところが、あなたがたは知らなくてもいいよ。Only 聖霊が臨まれると、あなたがたは証人となるよ。だからどのような場面でも、先ほども申し上げましたように、誰が正しかったのか、そうじゃないのか、これが合っているか合っていないか、損なのか得なのかという計算ではなくて、「なんで私が何も悪いところがないのに無視されるの？」ではなくて、「神様の計画は何だろう？」と問いかけるようになります。神様の導きを感謝している者は、だから Only、唯一性、再創造の祝福をそこで見るようになるでしょう。慌てないで。私たちは良い人との付き合いをいつも求めています。もちろん大切です。しかし、変な人間と遭遇する場合があります。「何でこんな人間なの？」ではなくて、神様の導きを信じている、また感謝している人は、神の計画は何だろうと問いかけます。何も問題ではありません。これを霊的な礼拝、生活の中でのいけにえと言うわけです。これが24時、生活の中での祈りというものです。サタンが砕かれるようになります。神様の導きを感謝すること、これこそが初穂の感謝のその感謝です。

### 3. 天国の希望を感謝する人は、世を超越し、この世を生かせる。

そして、これを感謝する人は、三番目です。神様の保証、つまり天国の希望を感謝することになります。天国の希望を感謝する人は、この世を超越して、この世を生かすことができる伝道者として生きることができるようになります。

だから勝利するしかありません。感謝はすごい武器であり、威力なのです。感謝を裏返しますとキリストとそこに書いてありますよ。それが感謝なのです。良いことあるから感謝、そうじゃないからつぶやく、それはイエス様もおっしゃいました。それは未信者も異邦人みなやっていることなのだから、それでは人生勝利できないだろう。そのために私についてきてるの？そのために教会に通っているのかと問いかけていらっしゃいます。

#### 1) 世の国、サタンの国、神の国

神様の保証、神様の備え、天国の希望を感謝する人は、この世を見る目が変わります。世の国をただ世の国ではなくて、サタンの国、目に見えない国を見て神の国を見るようになります。歴史観、世界観が変わります。天国の希望を信じて、それを感謝する人は。

## 2) 御座をバックにして超越

なので、この世を歩いてるときに天国をバックにして、つまり御座の祝福をバックにして歩くので、この世を超越することになります。この世を恐れることもなく、羨むこともなく、執着することもなく、未練なども持ちません。なぜなら天国を感謝しているから。天国の希望を持って歩いている者だから。悪魔はよくわかっているのだから、この感謝を持つことができないようにし、クリスチャンなのに結局この世に縛られるようにします。この世を超越します。超越というのは無関心ではありません。どこかの宗教のように、この世から逃げて山の中で修行するようなことではありません。

## 3) この世を宣教地と見て、旅人、伝道者として

この世に縛られることなく、この世を宣教地として見ることになり、だからこそこの世を旅人として伝道者として、この世を生きることになります。それを管理人の思想と言います。この世に希望や目的をもってこの世で頑張る者ではなくて、管理人として希望は別のところにあるので、ゴールはこの世ではありません。別のところにありますので。しかし、ほとんどのクリスチャンがこれを超越することができないのです。世の何かによって左右されます。なぜなのでしょう。天国の希望を信じていないし、感謝していないからです。神様は私たちのために備えて用意していらっしゃる究極のゴール、完成された目標というものを信じていないからです。

## 4) イエスのいのちと光を伝える人として

なので、自分自身はこの世にいる間にイエスのいのちと光を伝える人としてこの世を生きるんだ。私を通してイエスのいのちが流れ出て、イエスの光が放たれることになっている。どこに行っても誰と会っても自分がそういう存在であり、そのようなアイデンティティをもってこの世を生きる者、この世に存在する意義がそれだということが明確になっている者は、なぜ人と競争などするのでしょうか。人をさばいたりなどするのでしょうか。いのちを伝えようとしてるのに。いのちの光を持っているのに、それをあげないといけないのに、人と競争したり、さばいたり、つまずいたり、この世と妥協したりすることなどはしません。これは道徳的なレベルをアップさせようという話ではありません。私たちの存在がそういう存在です。学校にいても誰かと会っても未信者の家族の中に入ったとしても、そこで皆さんが光のやぐらとしてそこに立っているとすれば、このいのちを伝えようという者なのになぜ喧嘩するのでしょうか。そういう意味で聖書はそういうことはやめなさいと勧められているわけであって道徳ではありません。倫理ではありません。私という存在がそういう存在だから。御子のかたちであり、キリストの使節であり、キリストのからだなる教会であり... という存在だから、すべて譲って受け入れて超越して、そして御座の祝福が臨まれることに挑戦するようになるわけです。天国の希望を感謝する人から見られるその人の在り方です。だから勝利を収めるようになります。だから悪魔サタンが跪くようになります。これこそが収穫祭の感謝の意味なのです。

過越、初穂の感謝、収穫祭の感謝、この感謝を昔のイスラエルの儀式ではなくて、キリストにあってすべて完成されて、その感謝の主であるキリストが私たちの内側におられる、いのちある者としてこの感謝を回復しましょう。そういう意味で感謝は霊的戦いなのです。信者の特権でもあるし、武器でもあります。その感謝をぜひ回復してサタンが跪くことを見ましょう。それを勝利と言います。皆さんの内側で、考えの中でサタンが跪く場合もあるし、皆さんの周り現場でサタンが跪くことを見るようになるでしょう。状況がどう変わろうが、永遠に変わることのない感謝の中身、今日申し上げましたこの中身に集中しましょう。しかし、サタンはまたいろいろ邪魔すると思います。そのときに出エジプト 14: 14、紅海の前でモーセがイスラエルの民に対して叫んだ言葉を覚えて、それを振り切りましょう。「主があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなければならない。」。いろいろこの感謝を回復して感謝しようとしてるのに、また違うものが入り込もうとするでしょう。それに対して黙って。イエス様が最後におっしゃいました。使徒 1: 7、あなたがたは知らなくてもいいです。つまり、不平不満になるようなこと、言い訳、心配、思い煩いなどに対して黙っていなければならない。知らなくてもいい

よと振り切って感謝すべきものの方に向かいましょう。Only 聖霊が臨まれるとあなたは証人となるよ。その感謝すべき内容の方に向かいましょう。どんなことがあろうが、イエス様がおっしゃったのはこういう意味なのです。ローマの植民地であろうが、迫害があろうが、あなたがたははるかに上回る感謝があるのではないのか。聖霊が臨まれると。それを感謝して、その感謝の前で何が問題なるのでしょうか。何が気になるのでしょうか。この感謝に匹敵するようなものがどこにあるのかという意味なのです。あなたがたは聖霊が宿っている神の神殿ではないのか。御座があなたがたの内側に、あなたがたが御座に。そういう不思議な存在ではないのか。キリスト教は宗教ではありません。いのちなのです。なので、その感謝を奪われないようにしましょう。不平不満、つぶやき、言い訳、心配、思い煩いに感謝を奪われることがないように。黙って、知らなくてもいいよ。黙って知らん、黙って知らん。私には感謝すべきものがある。やってみてください。だまされるつもりで。となると黙って祈りに専念する方に行くようになります。その後、お証しするようなことが必ず起きますので。

(祈り)

恵み深い父なる神様。今日、初穂の感謝礼拝を兄弟姉妹とともに捧げることができてありがとうございます。どうか啓示の御霊様がひとりひとりの内側で働いて、私たちがどんな存在で、何を感謝することができるのか、私たちに特権でもあり武器でもあるサタンが跪くその感謝は一体何なのかということ吟味して黙って知らん。それで感謝に向かうことができ、敵なしの伝道者の旅人の人生を歩くことができ、現場で伝道のやぐらとしてしっかり立つことができるようにひとりひとりを祝福してください。どうか御座の祝福をもって内側から癒してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン